

会 議 要 旨

(1 / 3)

会議の名称	令和元年度第3回川越市健康づくり推進協議会
開催日時	令和元年10月3日(木) 14時45分 開会 ・ 15時45分 閉会
開催場所	川越市総合保健センター 1階地域活動室
議長氏名	会 長 廣澤 光昭
出席者氏名 (人数)	副会長 新井 正司 委 員 宮山 徳司、松本 勝、黒須 淳一、今井 恒晴、森山 康代、 井上 弘美、大塚 賢一、岩田 淳、原 伸次、長峰 す美子、 米原 民子、原 知之、志村 洋子、矢部 孝、江尻 旬子 (16名)
欠席者氏名 (人数)	委 員 西村 早苗、三芳 弘道(2名)
事務局職員氏名	保健医療部長 神田 宏次 健康づくり支援課 課長 嶋崎 鉄也、副課長 勝村 則子、主幹 千葉 幸子、 主幹 藪野 和代、副主幹 長澤 朋子、主査 小高 久美子、 主査 斎藤 愛、主査 佐藤 麻記子
会議次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 健康かわごえ推進プラン(第2次)の素案について 4 その他 5 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資 料 健康かわごえ推進プラン(第2次)素案 ・ 参考資料1 健康かわごえ推進プラン(第2次)素案について(比較表) ・ 参考資料2 健康かわごえ推進プラン(第2次)目標及び指標(案) ・ 参考資料3 ライフステージ別取組一覧 ・ 参考資料4 次期プランにおける市・関係団体の取組記載(案)

議 事 の 経 過

<会議の概要>

次期「健康かわごえ推進プラン」の策定に向けて、素案と参考資料を提示した上で現行プランからの変更点や目標及び指標、取組内容の案について説明し、意見を求めた。

<決定事項>

次期計画策定について、委員からの意見を踏まえた上で素案を修正し、原案作成を進めていくこととする。

<発言内容等>

(1) 健康かわごえ推進プラン（第2次）の素案について

- 前回の評価Dの項目について、同様の目標値を定めている項目があるが、改善する方策があるのか。
⇒悪化している項目については、市民への情報提供等による取組促進のほか、環境整備を進めることで改善につなげたい。
- 「8020の達成者の割合」について、最終評価値が42.5%で達成しており、次の目標値が50%と設定されている。しかし、2016年の全国平均が51.2%に達しているため、全国平均よりも低い値ではなく、努力して55%程度に設定してはどうか。
⇒目標値について検討する。
- 9章の「健康を支える環境づくり」の記載は大変有意義だが、身近な危機を回避しようとして、将来起こる危機に関心を向けないという日本人の傾向・特質や日本の社会風土を考慮した取組をしていかなければ、結果はでてこないと考える。例えば、健保組合で健康管理に取り組んだ結果発生したインセンティブを、かかりつけ医に診察の後で検診を勧奨していただくなどの対価とするなどの、大胆な考え方の転換をしていく必要がある。また、予算については行政だけでなく、共済健康保険や国民健康保険等の組合等を巻き込んでいく取組が必要だと思う。
9章に環境づくり、10章に健康組合等の役割が書いてあるので、それを強く印象づけるよう、計画の中からポイントを絞って外に出していけたら良いと思う。
⇒計画については、読みやすくしていく必要があると考える。また、情報を出す際には、ポイントを絞って分かりやすくしたい。
- 自分の身体と他人の身体の差が具体的に分かると、自分の身体のことに関心を持つことができ、また、今後必要な取組等が見えてくる。教育の場で自分の身体を知る機会が持てると思う。
⇒教育現場や職場等、所属先からのアプローチも必要なため、連携して進めていきたい。また、行政側からも、関心のない方にもアプローチできるよう様々な方法を模索しながら、積極的な情報発信を進めていきたい。
- 限られた授業時間の中で、学習指導要領の中で決められたことを最低限教えながら、可能な範囲で発展させるということになる。養護教諭や外部講師から発達段階に合った健康に関する知識を伝えてもらうことも考えられる。他に、各家庭での話し合いの中でも行えると思う。
- 健康に関する事業等を実施しても、いつも同じメンバーだということがよくあり、その方たちは市の計画を知っていると思うが、それ以外の方を含めた市民が、計画自体をどの程度知っているのか、アンケート結果からみえてくると良い。

議 事 の 経 過

⇒計画の認知度については、中間や最終評価等の1つの方法として、アンケート調査の項目に入れることを検討したい。

健康無関心層への支援は課題であり、仕事をしている方等も取り組めるよう環境整備が必要と考える。現在実施している健康マイレージ事業は、若い世代も参加している。また、ラジオ体操についても、企業で実施しているところが沢山あり、市内の健康づくりに貢献している企業とのコラボレーションなどを今後検討していきたい。

- 無関心層については、検討していかなければいけない問題であり、計画に関連団体等として出ている皆さんのお力も借りて、少しでも解決していきたい。
- 実施している食育活動では、若いお母さんの参加者が多く、託児があると参加率が高まる。教室等への参加は、お母さん同士のつながりができるきっかけにもなる。企画をするときには託児を用意するなどの工夫をすることで、食に関心のない若い世代の意欲を多少でも高めることができると思う。
- アンケート結果では、健診と歯科健診どちらかは受けている人が多く、健診時に相互に受診を勧めることが大切だと感じる。また、かかりつけ医がいない人は、健診の未受診理由が経費や時間、面倒だ等の理由が多く、かかりつけ医の専門的な指導が大切だと思う。情報の取得媒体は「インターネット」「テレビ」「ラジオ」が多いが、メディアから様々な情報が流れている中で、かかりつけ医からは正しい情報が提供していただけるため、医療機関の医師との連携は大変重要と考える。
- かかりつけ医については、医師会でも検討課題としていきたい。
- 「バランスのよい食事」と聞いても分からない人もいるため、参考資料のような形で、例えば「炭水化物はお米やパン」で、どのように摂れば良い、タンパク質は年代に応じてどのぐらい摂れば良い、など具体的な説明があると良い。

⇒各取組内容について、現計画と同様にコラムとして具体的な説明を入れていきたい。